

平成25年度 篠山市環境報告書



篠山市では、平成22年4月から「篠山市環境基本条例」を施行し、条例に示す基本理念の下、篠山市環境基本計画「源流のまち篠山」を策定、実行に移し、総合的な各種環境施策に取り組んでいます。

篠山市環境基本条例第11条では、市長は、市の環境の現状や施策の実施状況をまとめ、市民のみなさまにお知らせすることと規定しており、この環境年次報告書を作成しました。

内容としましては、環境基本条例・環境基本計画に関すること、また平成25年度に市が取り組んだ環境関連施策の主なものを取り上げて掲載しています。

この環境年次報告書が、環境に対する理解を深めていただくとともに、今後みなさまが環境について取り組まれるきっかけになれば幸いです。

目次

第1章 総合的な環境施策の推進	1
1. 篠山市環境基本条例の制定.....	1
2. 篠山市環境基本計画の策定.....	3
第2章 主要な環境施策	4
1. 篠山環境みらい会議.....	4
(1) 環境イベントの開催.....	4
(2) 各部会での取組み.....	5
2. 自然環境分野.....	6
(1) 生物多様性の保全.....	6
3. 環境学習・教育分野.....	8
(1) 緑のカーテンを広げよう.....	8
(2) ささやま環境防災みらい学校.....	8
(3) エコ・ティーチャーのおもしろ環境講座.....	9
(4) 環境体験事業.....	9
4. 生活(地球)環境分野.....	10
(1) ごみ処理の現状(処分量・資源化率).....	10
(2) ごみ減量化の取組み(環境実行計画11).....	11
(3) 地球温暖化対策実行計画(事務事業編).....	12
(4) 住宅用太陽光発電システム設置補助金.....	13
(5) 水質検査の実施.....	13
(6) 地域新エネルギー・省エネルギービジョンの策定.....	14
5. 農林業分野.....	15
(1) 里山彩園実験事業(環境実行計画9).....	15
(2) 里山スクール(環境実行計画9).....	15
(3) 森のエネルギー地産地消実験事業(環境実行計画10).....	15
6. その他の施策.....	16
(1) 環境セミナー.....	16
(2) 環境パトロール.....	16
(3) クリーン作戦.....	16
(4) 広報・ホームページによる普及啓発.....	16

第 1 章 総合的な環境施策の推進

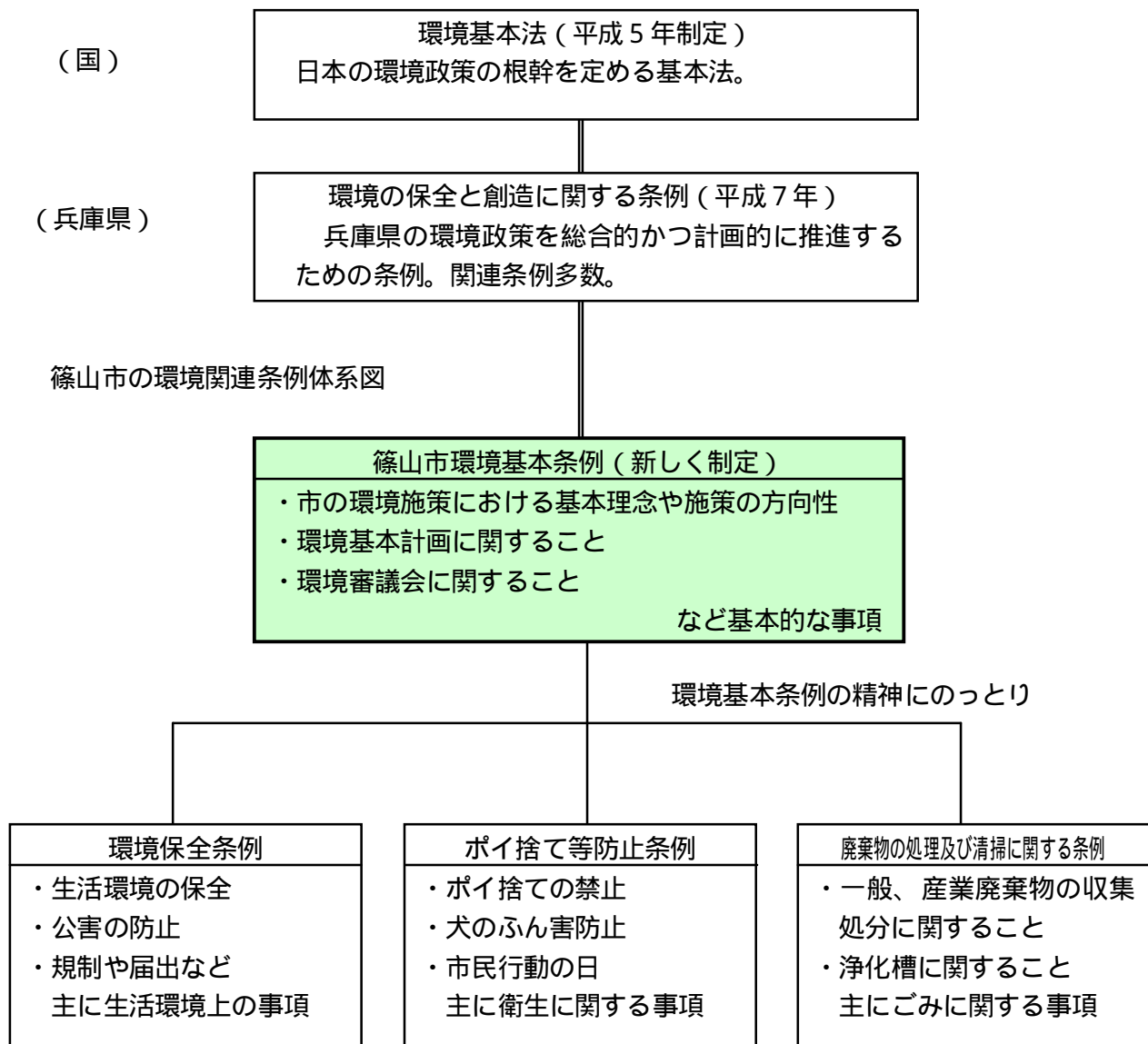
1. 篠山市環境基本条例の制定

市の総合的な環境施策に関する基本理念や方針を定めた「篠山市環境基本条例」を、平成 22 年 4 月 1 日より施行しました。

これまで、本市の環境に関して個々具体の規制等に関する条例はありましたが、総合的な環境施策に関する基本理念や方針を規定した条例はありませんでした。環境基本条例は、個々具体の関連条例等の上位条例として、環境施策に関する基本理念や方針、市、市民、事業者の責務等について定めています。

制定にあたっては、環境基本計画ワークショップのメンバーで話し合い、前文や条項を検討し、その後、庁内で調整し、パブリックコメントを募集し、22 年 3 月議会に上程しました。

【環境基本法、条例関連体系図】



【環境基本条例の構成】

前文 法令等の条項の前に置かれている文章で、制定の趣旨や基本原則などを記しているとともに、篠山の環境はこうあってほしいという思いが込められた前文です。

私たちのまち篠山は、多紀連山など山々に囲まれた美しく自然豊かな地域にあり、清らかな水や肥沃な大地、澄んだ空気に恵まれています。そこにはさまざまな歴史や文化が生まれ、それらは先人の努力で大切に守られ引き継がれてきました。この地で育まれた黒豆、山の芋、栗、松茸など多くの農産物は、丹波篠山のブランドとして全国に誇れる特産品となっています。

篠山に天から落ちた一滴一滴の雨粒は、豊かな森をつくり、川となって田畑をうるおします。小川にはホタルが飛び交い、メダカが泳ぎ、子どもたちの遊ぶ姿がみられます。やがて、小川は集まり川となって、加古川、武庫川、由良川へと流れ出ます。下流に数百万人もの人々が生活する三つの河川、その「源流のまち篠山」に住む私たちは、環境の大切さを認識し日々の営みを続けていかなければなりません。

近年、経済成長などに伴う社会環境の変化により、地球規模では温暖化や酸性雨、オゾン層の破壊など深刻な環境問題が起きています。また、篠山市においては、森と里山の再生、ゴミの減量とリサイクル、生活環境の改善、環境意識の向上などさまざまな課題を抱えています。

私たちはこの篠山で、命を育む豊かな森、清らかな水、澄んだ空気を大切に守り、身近な環境課題を克服するなど環境の保全に真摯に取り組むとともに、篠山にふさわしい優れた環境を創造し、それを確実に次世代に引き継いでいくため、この条例を定めます。

第1章 総則 本条例制定の目的や、用語の意義、基本理念、市・市民および事業者の責務について定めています。

第1条（目的）	第2条（定義）	第3条（基本理念）
第4条（市の責務）	第5条（市民の責務）	第6条（事業者の責務）

第2章 基本方針 自然環境の保全や環境教育等の推進、調査研究の充実等、市が環境の保全と創造に関して推進するべき施策の基本的な方針について定めています。

第7条（豊かな自然環境の保全）	第8条（環境教育等の推進）
第9条（環境に配慮した農業の推進）	第10条（地球温暖化防止対策）
第11条（環境状況の報告）	第12条（必要な措置）
第13条（調査研究等の充実）	第14条（国及び他の地方公共団体との連携）

第3章 環境基本計画 環境保全に関する施策を長期的な観点から計画的に推進するために策定する環境基本計画について定めています。

第15条（環境基本計画の策定）	第16条（環境基本計画との整合性）
-----------------	-------------------

第4章 環境審議会 環境の保全と創造に関して必要な事項を審議する機関である環境審議会の組織について定めています。

第17条（環境審議会）

2. 篠山市環境基本計画の策定

現在、地球温暖化をはじめとする環境問題は、私たち一人ひとりが取り組むことが大切です。本市では、これまでもごみ問題や公害といった環境問題に取り組んできましたが、平成 22 年 3 月、市の環境施策を総合的・体系的に推進していくための指針等を定めた「篠山市環境基本計画」を策定しました。策定にあたっては、平成 20 年度より公募によって集まっていた市民メンバーによるワークショップを計 19 回開催し、めざす環境像や基本目標、環境実行計画等について話し合い、計画案を作成し、パブリックコメントの募集や議会で説明するなど、多くの市民の方のご意見を反映させました。

【めざす環境像】

「源流のまち篠山 ~命をはぐくむ豊かな森と水を未来につなぐ~」

篠山市は、瀬戸内海に流れる加古川・武庫川、そして日本海に向けて流れる由良川という三本の河川の源流地域に位置する類を見ない環境にあり、その清流は市の周りを取り囲む山々から流れ出て、さまざまな生きものや農作物を育んできました。

いわば、水、そして豊かな森はすべての命をつなぐ源であるといえます。

篠山市の特色であると同時に宝でもある豊かな自然を守り、そして子どもたちや未来の篠山市民により良い環境をつないでいく役割を認識するために、この将来像を掲げました。

【基本目標】

めざす環境像を実現するため、自然、環境学習、農業、生活の 4 つの分野で基本目標を掲げ、取り組みを進めてきました。

- ・基本目標 1 (自然環境) **自然豊かな恵みを実感できるまち**
- ・基本目標 2 (環境教育) **豊かな“こころ”を未来につなぐまち**
- ・基本目標 3 (農業) **環境と農家の営みが共鳴するまち**
- ・基本目標 4 (生活環境) **自然の恵みが循環するまち**

【環境実行計画】

今年度は、「1 篠山環境みらい会議の設立」、「3 源流を活かした環境学習」、「4 環境防災みらい学校」、「6 生きものとの共生」、「篠山自然フォトコンテスト」、「9 里山の再生」、「10 間伐実施と間伐材利用促進」、「11 ごみを減らすために P R」、「12 家庭の生ゴミ堆肥化」、「13 太陽光発電の普及促進」、「14 緑のカーテン普及促進」等の事業を進めました。

【環境実行計画一覧】

1 篠山環境みらい会議の設立	2 源流流域交流(源流会議)
3 源流を活かした環境学習	4 環境防災みらい学校
5 水の定点観測と浄化	6 生きものとの共生
7 地域マップ作成	8 篠山自然フォトコンテスト
9 里山の再生	10 間伐実施と間伐材利用促進
11 ごみを減らすために P R	12 家庭の生ゴミ堆肥化
13 太陽光発電の普及促進	14 緑のカーテン普及促進
15 遊休農地の活用促進	

第 2 章 主要な環境施策

今年度は環境基本計画の環境実行計画に基づき、以下の事業を実施しました。その状況について報告します。

1. 篠山環境みらい会議（環境実行計画 1） 環境課

篠山環境みらい会議は、平成 25 年度で設立 3 年目を迎えました。

今年度は 6 月に環境学習をテーマにした「ごんた山探検隊」、平成 26 年 2 月には里山をテーマにした「知っとなってか？里山の今と昔 そしてみらいへ」を開催され、部会では、里山、環境教育、エネルギーをテーマに活動されました。

【篠山環境みらい会議の概要】

設立	平成 23 年 4 月
役員	会長、副会長、部会長 3 名
構成	全体会（イベント企画など、全体の取り組みについて協議） 部会（環境教育、エネルギー、里山をテーマに実践活動）
委員	17 名
任期	2 年
開催頻度	1 回 / 月（全体会）、1~2 回 / 月（各部会）

（1） 環境イベントの開催

ごんた山探検隊

6 月 8 日、チルドレンズミュージアムにて、「ごんた山探検隊」を開催しました。

自然観察会では、むしクラブ代表の大塚剛二さんを講師に、ごんた山に登って親子で昆虫や植物などを観察しました。他には、竹とんぼや紙ひこうき作り、田んぼの生き物観察、東雲高校特製「山の芋カレー」の振る舞いなどで賑わいました。

知っとなってか？里山の今と昔 そしてみらいへ

2 月 16 日に里山をテーマにしたイベント「知っとなってか？里山の今と昔 そしてみらいへ」を開催しました。

午前の部は、日置地区の剛山でモデル的に里山整備に取り組んでいる状況を公開し、「丹波篠山木の駅実行委員会」代表の高橋隆治さんによる木の伐採の実演などで盛り上がりました。

午後の部は、兵庫県立大学名誉教授の服部保氏による「里山の現状とその整備の必要性」の講演や市内で里山整備を実践する 3 団体（辻を知ろう歩こう会、神戸大学 ささやまファン倶楽部、篠山環境みらい会議里山部会）の活動報告があり、会場と積極的な意見のやりとりが行われました。



ごんた山探検隊の様子



知っとなってか？里山の今と昔 そしてみらいへの様子

その他、NPO 法人バイオマス丹波篠山によるペレットストーブの展示、鉾(ちょうな)を使った椅子づくり、皆さんから募集したペレットストーブ・薪ストーブの写真や山しごとの道具の展示、篠山東雲高校による里山で採れる材料を使ったワークショップなどで賑わいました。

(2) 各部会での取組み

環境教育部会

目的

学校で取り組まれている環境学習の実情や課題を把握し、環境学習を支援する方法を検討する。

活動状況

今年度は、児童クラブ等での環境学習を進めるため、環境学習教材「生き物どんな感じ?トランプ」や「環境すごろく」を作成し、児童クラブやチルドレンズミュージアムに配布しました。

エネルギー部会

目的

東日本大震災での原子力発電事故を受け、これからのエネルギーのありかたを市民と一緒に考え、市のエネルギービジョンを検討する。

活動状況

市民発電所の設置に向けて学習会を開催するなど、エネルギーの地産地消を進める取り組みを始めました。

里山部会

目的

誰もが里山に目を向けるきっかけづくりを目的として、城東校区の剛山の一部で整備作業を実施。

活動状況

昨年度に引き続き、神戸大学の学生や東雲高校の生徒と連携し、剛山の一部で整備作業を実施しました。

2月16日のイベントでは、里山の整備状況を公開しました。



環境教育部会「生き物どんな感じ?トランプ」



エネルギー部会「市民発電所設置に向けた学習会」



里山部会「剛山整備作業」

2. 自然環境分野

(1) 生物多様性の保全（環境実行計画6）環境課

南堀の外來生物駆除

篠山城跡公園では、外來生物の侵入が深刻となっており、毎年、その駆除作業を実施しています。

本年度は、篠山産業高校丹南校生物部、県立人と自然の博物館研究員の協力により南堀の外來生物駆除作業を実施しました。

【結果】

種 類	捕獲数	最大 (cm)	
ブラックバス	15	41	外來種
アカミミガメ	3	21	外來種
ブルーギル	1000	18	外來種
フナ	11	40	在來種
モツゴ	2	6	在來種
クサガメ	2	18	在來種

在來種は放流しました。

ミシシippアカミミガメの生息調査

かつて南堀に咲き乱れていたハスを復活させることを目的とした「お堀のハスの花を復活させようプロジェクト」の取り組みの一環として、ミシシippアカミミガメの生息実態調査を実施しました。

当プロジェクトは、こども会議での篠山小学校の提案をきっかけに発足しました。ハスの花が消滅した原因としては、アカミミガメの食害によるものが有力とされており、篠山産業高校丹南校生物部、専門家の協力により西堀、南堀、薬研堀に5つの網を仕掛け、ミシシippアカミミガメの生息調査を実施しました。

今後も調査を進め、ハスの花が消滅した原因を探っていきます。

【調査結果】

種 類	捕獲数	甲長 (cm)
アカミミガメ	13	20cm
クサガメ	14	21cm
イシガメ	2	10cm

生物多様性ささやま戦略、配慮指針の作成

篠山市在住の霊長類学的世界的権威である河合雅雄氏の著書「少年動物誌」をもとにした映画「森の学校」で描かれるような豊かな自然を取り戻し、篠山の多様な生物環境を将来の子どもたちに引き継いでいくため、市の



南堀の外來種駆除作業の様子



ミシシippアカミミガメ生息調査の様子



生物多様性ささやま戦略、配慮指針

生物多様性に関する方針を定めた「生物多様性ささやま戦略」を策定しました。

また、身近な自然再生の方法をまとめた配慮指針を作成し、全世帯に配布しました。今後も配慮指針を活用し、市民ひとり一人の生物多様性の保全に関する活動を広げていきます。

市民による生物多様性保全活動の促進

市民による生物多様性の保全に関する活動を広げていくため、本年度より「生物多様性促進活動補助金」を創設しました。

これは、希少種の保全活動、休耕田ビオトープ、冬期湛水などにより生物多様性の保全に取り組もうとする団体に対して、補助金(上限 20 万円)を交付するものです。本年度は以下の団体、個人が取り組まれました。今後も、市民レベルでの生物多様性の保全活動を広げていきます。



市民による生物多様性保全活動

【生物多様性促進活動補助金 交付状況】

活動の種類	交付決定団体等
動植物の生息・生育環境保全再生活動	味間地区まちづくり協議会 農事生産組合 真南条上営農組合 龍蔵寺自然保護推進会 サギソウ保存会 ひよっこり会
広葉樹林整備活動	農事生産組合 真南条上営農組合
普及啓発活動	むしクラブ
冬期湛水	団体 1 件、市民 2 件
休耕田ビオトープ	団体 1 件、市民 2 件
合計	13 件

3. 環境学習・教育分野 環境課

(1) 緑のカーテンを広げよう (環境実行計画 14)

各家庭で簡単に組み立てる地球温暖化防止対策として、県立篠山東雲高校と共同で山の芋の緑のカーテンに取り組んでいます。

本年度も市役所において緑のカーテンを設置し、普及啓発しました。また、環境学習の一環として、21の学校に緑のカーテンの資材を提供しました。

山の芋の緑のカーテンは、市民にも広がりつつあります。5月に開催した市民向けの講習会では40名が受講しました。3月30日に開催された篠山ロータリークラブ主催のイベントでは、多くの方に山の芋グリーンカーテン栽培セット、作り方マニュアルを配布しました。

(2) ささやま環境防災みらい学校 (環境実行計画 4) 環境課・市民安全課

近年、地球温暖化による異常気象や東日本大震災など、大きな災害が発生しています。

将来を担う子どもたちに、環境問題と防災を一緒に学んでほしいという思いから、市内の小学生児童と保護者を対象に、「ささやま環境防災みらい学校」を実施しています。

今年度は9組の参加があり、5月の開校式から10月の卒業式まで、合計6回、川の生きもの観察や避難所キャンプ、市外の環境・防災関連施設の社会見学等の授業を行いました。



学校の緑のカーテン



篠山の芋グリーンカーテンマニュアル



篠山環境防災みらい学校の様子

【ささやま環境防災みらい学校 開催内容】

回	内容	場所
1	入学式・篠山の森を学ぶ	丹波並木道中央公園
2	避難所体験キャンプ	古市コミュニティ消防センター
3	篠山の川の生き物観察	篠山産業高等学校丹南校
4	大人と子どもの社会見学	陸上自衛隊青野原駐屯地 パナソニックエコテクノロジーセンター
5	阪神・淡路大震災を学ぶ	人と防災未来センター
6	地球温暖化のはなし・卒業式	篠山市民センター

(3) エコ・ティーチャーのおもしろ環境講座 (環境実行計画3) 環境課

小学校及び特別支援学校での環境学習支援策として、環境学習講師派遣事業「エコ・ティーチャーのおもしろ環境講座」を実施しました。

これは、篠山環境みらい会議環境教育部会から提案を受けた事業で、予め市に登録のある講師を学校の要望に応じて派遣する制度です。

農業、生き物、ごみなど幅広い分野において講師の要望があり、延べ9回の申し込みがありました。



授業の様子

【エコ・ティーチャーのおもしろ環境講座】

講座名	講師
おもしろ農業実践学習	堀江 溢雄
川の中の生き物調べ、ホタルのすめる環境	田井 彰人
里山のいきもの	長井 吉広
川の成り立ちと環境問題、ごみ分別ゲーム	環境課

(4) 環境体験事業 各小学校

小学3年生を対象に体験型の環境学習(環境体験事業)を実施しています。

今年度は全小学校(16校)が取り組み、稲や黒大豆などの栽培、生きもの調査などを通して、ふるさとの自然環境や農業と食の大切さを学びました。

【環境体験事業実施校と内容】

学校名	取組内容
篠山小学校	米豆ピカイチ大作戦
八上小学校	黒豆はかせになろう
城北畑小学校	黒豆作りの1年
岡野小学校	大すき!おかの~黒豆を育てよう~
城東小学校	黒豆PR大作戦
福住小学校	ふるさとの自然の中で農産物を育てよう
大芋小学校	おくもをまるごと体験しよう
村雲小学校	篠山市の特産物情報
西紀南小学校	のびろ!篠山ふしぎ探検隊
西紀小学校	のびろ!篠山ふしぎ探検隊
西紀北小学校	草山の人と自然に学ぼう ~めざせ! 黒豆博士~
大山小学校	丹波篠山黒豆のひみつを調べよう!
味間小学校	ふるさと輪んだふる
城南小学校	黒豆PR大作戦
古市小学校	古市の自然にふれあおう
今田小学校	守ろう育てよう今田のサギソウ

4. 生活（地球）環境分野

(1) ごみ処理の現状（処分量・資源化率） 環境課

本年度、篠山市清掃センターで処理したごみの量と資源化率は以下の表のとおりです。清掃センターでは、市内のごみと丹波市山南町のごみを受け入れています。家庭からは、ごみ袋で排出される計画収集とセンターへの直接搬入の2区分で受け入れています。計画収集では、可燃、プラスチック容器包装、ペットボトル、金属類、缶・びん、埋め立ての6区分で収集しています。直接搬入のみでの受け入れは、自転車・電子レンジ・原動機付自転車が受け入れ可能です。

【平成25年度 廃棄物処理実績】

(単位：t)

	ごみの種類	平成25年度処理量			平成24年度処理量			
			篠山市	山南町		篠山市	山南町	
計 画 収 集	可燃ごみ	8,602	6,920	1,682	8,702	6,994	1,708	
	プラ容器包装	263	211	52	262	211	51	
	ペットボトル	81	63	18	79	62	17	
	金属類	89	68	21	90	69	21	
	缶・びん	511	378	133	529	392	137	
	埋め立て	85	85	0	91	91	0	
	粗大ごみ	11	11	0	13	13	0	
	計画収集計	9,642	7,736	1,906	9,766	7,832	1,934	
直 接 搬 入	家庭	可燃	1,326	1,194	132	1,367	1,198	169
		不燃	336	324	12	392	383	9
	事業	可燃	6,763	6,427	336	6,204	5,962	242
		不燃	43	35	8	44	43	1
	事業埋め立て	180	180	0	368	368	0	
	自転車	7	7	0	8	8	0	
	電子レンジ	6	6	0	6	6	0	
	その他	0	0	0	1	0	1	
	直接搬入計	8,661	8,173	488	8,390	7,968	422	
合 計	18,303	15,909	2,394	18,156	15,800	2,356		

【平成25年度 ごみの資源化率】

(単位：t)

種 類	発生量	資源化量	資源化率
金属類	213	216	101.4%
カン・ビン類	511	303	59.3%
ペットボトル	80	68	85.0%
容器包装プラ	261	110	42.1%

金属類は、平成24年度に資源化できなかったものを平成25年度に処理したことなどにより、発生量を上回る資源化量となっています。

(2) ごみ減量化の取り組み(環境実行計画 11) 環境課

PTA等による資源ごみの集団回収

新聞などの古紙類、布、缶・びん、廃食用油などを資源として有効活用するため、PTA等による資源ごみの集団回収が実施されており、奨励金を交付しています。

【資源ごみ集団回収実績(実施団体 79 件)】

新聞 570.4t 雑誌 281.2t 段ボール 321.9t 布 58.2t

びん 8.8t 缶 40.9t 廃食用油 705.0

びん類は、500g/本に換算

資源ごみの拠点回収

古新聞・古雑誌等の古紙類、缶・ビンなどの資源ごみは、PTAや子ども会等の地域団体が実施する「資源ごみ集団回収」にご協力いただき、資源ごみの回収・再資源化を図っています。しかし、再資源化できず「燃えるごみ」に混入されているケースもあり、毎月第2水曜日に行行政収集による資源ごみの拠点回収を実施しています。

【資源ごみ拠点回収の概要】

日 時：毎月第2水曜日 7:00～10:00 清掃センターは8:30～

場 所：本庁第2庁舎前、各支所前、清掃センター

回収品目：新聞紙、雑誌、段ボール、その他紙類、びん(茶・透明・緑)、乾電池、
蛍光灯、廃食用油、ペットボトルのキャップ

処分費：無料(但し、拠点回収時のみ)

【平成25年度 資源ごみの回収量】

	古紙(kg)				びん (kg)	蛍光灯 (kg)	乾電池 (kg)	PET キャップ	廃食用 油()
	新聞	雑誌	段 ボール	その 他紙					
4月	1,420	300	360	70	450	20	60	40	100
5月	1,030	480	310	100	640	30	70	7	50
6月	1,000	290	220	80	590	40	50	2	40
7月	980	280	320	30	480	20	30	25	60
8月	730	330	260	180	420	10	20	4	40
9月	1,510	540	390	90	620	40	70	4	100
10月	740	230	170	20	480	10	30	3	60
11月	780	380	130	50	500	20	60	7	20
12月	1,230	450	230	130	580	60	80	32	100
1月	760	250	180	30	400	40	40	2	40
2月	1,290	530	290	70	480	40	40	6	25
3月	1,520	1,120	290	40	660	40	60	2	110
計	12,990	5,180	3,150	890	6,300	370	610	134	745

持込者数：延べ1,655人

篠山市清掃センターの見学

篠山市清掃センターでは、適正なごみ処理への啓発活動の一環として、ごみ焼却施設やリサイクルプラザの見学を行っています。今年度は 19 団体、444 名の見学者があり、実際に施設や作業の様子を見学してもらいながら、どのようにごみが処理されているか説明しました。

ダンボールコンポスト講習会

ダンボールという身近な素材を使って、手間をかけずにごみが減量できる「ダンボールコンポスト」が注目されています。12 月 14 日と 3 月 22 日に兵庫県地球温暖化防止活動推進員の黒谷静佳氏を講師に招き、ダンボールコンポスト講習会を開催し、延べ 80 名の方が参加されました。

また、今後の普及促進を図るため、作り方マニュアルを作成しました。



ダンボールコンポスト講習会の様子

(3) 地球温暖化対策実行計画（事務事業編） 環境課

地球温暖化対策の一環として、「篠山市地球温暖化対策実行計画」を策定し、市役所関係施設の各種事務事業から排出する温室効果ガス排出量を算定しています。平成 23 年度にはその計画の更新をして、第 3 次計画を策定しました。

第 3 次計画では、各種の対策を行うことにより、基準年度（平成 22 年度）の排出量に対し、目標年度（平成 27 年度）に 5 パーセント削減することを目標としています。

基準年度である平成 22 年度の排出量が 15,096,043 kg-CO₂（22 年度排出係数使用）であるのに対し、平成 24 年度の排出量の集計は、16,186,958 kg-CO₂ と 7.24 パーセント上昇しました。

これは、前年度と比べてガソリンや A 重油などの燃料使用量と廃棄物の焼却量など市民生活に密着した項目で増加したことが原因と考えられます。一方で、昨年度に引き続き節電の意識が高く、5 パーセント削減することができました。

今後さらなる温室効果ガスの排出削減を目指し、設備の定期的な点検及び保守管理、また使用する職員の更なる意識の向上を図ります。

【種類ごとの温室効果ガス排出量】

（排出量単位：kg-Co₂）

ガスの種類	平成 22 年度 （基準年度）	平成 24 年度	H24 増減量	H24 増減率
二酸化炭素	14,534,733	15,617,479	1,082,746	7.4%
メタン	74,458	74,672	214	0.3%
一酸化二窒素	483,341	492,350	9,009	1.9%
HFC	3,510	2,457	- 1,053	- 30.0%
合計	15,096,042	16,186,958	1,090,916	7.2%

(4) 住宅用太陽光発電システム設置補助金 **環境課**

地球温暖化防止を目的に、住宅用の太陽光発電システムの設置を促進するため、設置者に対して補助金を交付しています。

国の住宅用太陽光発電導入支援対策費補助金の交付額の決定通知を受けている方を対象に、太陽電池出力1kwあたり2万円(上限6万円/3kw)を上限に交付し、予算300万円に対して、50件の申請がありました。

(5) 水質検査の実施 **環境課**

市内の河川水質の状況を監視するため、年4回(3・6・9・12月)、7つの河川(篠山川、四斗谷川、東条川、武庫川、羽束川、宮田川、友淵川)の最下流(市境)付近で水質検査を行っております。7つの河川の年間の平均値は、下表のとおりです。

全ての河川において基準をクリアしていますが、数値が悪化している項目もありますので、今後も継続した検査が必要です。

【主要7河川の水質調査結果】

	pH		BOD		SS		DO	
	H25	H24	H25	H24	H25	H24	H25	H24
篠山川(A)	7.2	7.5	1.0	1.4	4.8	1.4	9.6	10.1
東条川(A)	7.1	7.7	1.0	1.6	4.0	1.6	9.9	10.4
四斗谷川(A)	7.0	7.7	0.9	1.3	2.8	1.3	9.8	10.7
武庫川(A)	7.0	7.4	1.0	1.3	3.5	1.3	10.0	10.7
羽束川(A)	7.2	7.5	0.9	1.2	2.5	1.2	10.3	11.0
宮田川(A)	7.0	-	0.6	-	2.7	-	9.8	-
友淵川(AA)	7.1	7.3	0.8	1.6	1.3	1.6	9.7	10.9
環境基準(A)	6.5以上 8.5以下		2mg/以下		25mg/以下		7.5mg/以上	
環境基準(AA)	6.5以上 8.5以下		1mg/以下		25mg/以下		7.5mg/以上	

宮田川は平成25年度から水質検査を実施したため、6月・9月12月の平均値。

【用語解説】

環境基準：人の健康の保護及び生活環境の保全のうえで維持されることが望ましいとされる基準。人の健康等を維持するための最低限度としてではなく、より積極的に維持されることが望ましい目標として、環境基本法に定められている。

pH(水素イオン濃度)：物質の酸性、アルカリ性の度合いを示す数値で、pH=7の場合は中性と呼ばれる。pH値が小さくなればなるほど酸性が強いとされ、逆にpH値が大きくなればなるほどアルカリ性が強いとされる。

BOD(生物化学的酸素要求量)：最も一般的な水質指標のひとつで、水中の有機物などの量を、その酸化分解のために微生物が必要とする酸素の量で表したものの。一般に、BODの値が大きいほど、その水質は悪いと言える。

SS(浮遊物質)：水中に浮遊する粒径2mm以下の不溶解性物質の総称で、SSの多い水は、透視度が下がり藻類の光合成を阻害する。

DO(溶存酸素)：水中に溶存する酸素の量のこと、数値が低いほど水質が悪いと言える。

(6) 地域新エネルギー・省エネルギービジョンの策定 環境課

地球温暖化問題が世界的な問題となり、また、東日本大震災による原子力発電事故で再生可能エネルギーに注目が集まり、市民のエネルギーに関する意識も変わってきました。

市としてエネルギーに関する方針を定め、統括的に政策を進めるため、「地域新エネルギー・省エネルギービジョン」の策定を進めています。

現在、策定委員会において協議が重ねられており、来年度中の策定をめざして取り組んでいます。



地域新エネルギービジョン策定委員会の様子

【篠山市地域新エネルギービジョン策定委員会 開催経過】

	協議内容
第1回(9月30日)	策定スケジュール、委員会の進め方等について
第2回(10月28日)	ビジョンの構成、新エネルギー賦存量・利用可能量について
第3回(12月2日)	ビジョンの素案について
第4回(1月24日)	ビジョンの素案について
第5回(2月17日)	ビジョンの目標値などについて

5. 農林業分野

(1) 里山彩園実験事業（環境実行計画 9） 農都整備課

手入れされていない里山林を地域住民が手を加えることで、美しい里山風景や生物多様性の保全、野生動物の農地等への侵入を防ぐ効果など期待できます。

こういった里山林の再生効果を持続させる仕組み（市民等の活動支援・活動促進策）を構築するため、モデル地区を設定し、効果測定を行うなど、事業化への資料を収集することを目的として里山彩園実験事業を実施しています。

本年度は2団体が採択され、里山林の再生に取り組まれています。

【里山彩園事業の概要】

対 象	市民5人以上で構成される団体
事業地要件	概ね1ha以上のまとまった里山林(主に天然林)及び隣接する農地で、かつ、概ね10年以上手入れがされていない森林であること など
助成金	1事業実施主体当たり60万円以内とし、採択初年度から最大3年間、助成金を分割して受けることができる。
実施期間	5年以上

(2) 里山スクール（環境実行計画 9） 農都整備課

自ら所有する里山や森林を整備したい意思がありつつも、残すべき樹木と伐採すべき樹木の選定や安全な伐採方法がわからず整備作業に踏み切れない市民に対し、里山や森林の整備に必要な基礎的な知識を習得するための講座「里山スクール」を実施しています。

本年度は、里山の活用法や機具の取り扱いや実地での伐木作業などの講座を行う基礎編には13名の申し込みがあり、これまでの受講者を対象に間伐や広葉樹林整備などの講座を行う応用編には、延べ43名の申し込みがありました。



里山スクールの様子

(3) 森のエネルギー地産地消実験事業（環境実行計画 10） 農都整備課

これまであまり利用されていなかった間伐や里山整備などで伐採した木を買い取り、それを原料にペレット燃料を作り、ペレットストーブの燃料として使用するため、公共施設にペレットストーブの設置を進めています。

本年度は城東支所及び今田支所にペレットストーブを設置しました。



城東支所のペレットストーブ

6. その他の施策

(1) 環境セミナー 環境課

9月1日、丹南健康福祉センターで篠山市環境セミナーを開催し、約80名の方にご参加いただきました。

清掃センターの職員による「プラスチックの分別と意義」というテーマでの研修、そして、人と自然の博物館主任研究員の田中哲夫氏による講演「森の学校復活大作戦～みんなで取り組む生物多様性の保全～」や生物多様性に関するパネル展示を行いました。



環境セミナーの様子

(2) 環境パトロール 環境課

市内のごみポイ捨て・不法投棄の現状を把握し、今後の環境美化対策を考える目的として、10月23日、関係機関等と合同で市内をパトロールし、情報を共有するとともに、参加者の協力のもと、不法投棄物の回収（可燃50kg、不燃30kg）を行いました。



環境パトロールの様子

【当日参加の関係機関等】

- ・篠山市保健衛生推進協議会 役員（8名）
- ・篠山市自治会長会 （3名）
- ・丹波県民局環境課 （4名）
- ・丹波県民局丹波土木事務所道路保全二課・管理課（1名）
- ・(財)兵庫県産業廃棄物協会丹波支部（1名）
- ・篠山市環境課（5名）
- ・篠山市議会議員（2名）

(3) クリーン作戦 環境課

毎年6月に丹波一斉、11月に篠山市一斉のクリーン作戦を実施しています。各月の第1日曜日を基準日に設定し、各自治会で主要な道路沿いや河川敷などの清掃にお取り組みいただいています。また、この基準日にかかわらず、随時清掃いただいている自治会も多くあります。

平成25年度にクリーン作戦で回収したゴミは、約47.6トンにものぼりました。

(4) 広報・ホームページによる普及啓発 環境課

市民の方々に環境問題について取り組んでもらおうと、広報誌においてコラム「ささやまエコ日記」を掲載し、啓発しました。また、環境・衛生情報を市のホームページに掲載しています。



平成 25 年度 篠山市環境報告書

篠山市農都創造部農都環境課

〒669-2397 篠山市北新町 41

電 話：079-552-1111（代表）

E-mail：kankyo_div@city.sasayama.hyogo.jp